

税理士の ひとりごと

No. 80

どこまでが不要不急？

税理士 齋藤明

この原稿が印刷されて皆さんのお手元に届いた頃には、コロナウイルス騒動は沈静化しているのでしょうか？それとも、今よりもっと世の中は混沌としてしまっているのでしょうか？今は、まだまったく予断を許さない状況で、ただただ不安でしかありません。当初は、これほど大事になるとは思っていなかったものですから、このコロナ騒動によって確定申告期限が1ヵ月延長された時には、呑気に「コロナちゃん（コロナウイルス）様々ですわ」なんて喜んでいたのですが、もはやまったくそんな雰囲気ではない、大変な事態になってしまいました。

街のスーパーの棚が空っぽになってしまったテレビ映像などを見るにつけ、ふと東日本大震災の頃のことを思い出してしまいました。あの時も、私は事務所で確定申告をやっていたのです。激しく揺れる事務所、「大きい地震だったな」なんて思ってたネットニュースを

見ると、何度も続く余震と映画のような津波の映像、増え続ける死者・行方不明者の数、追い打ちをかけるように発生した原発事故、つのる不安。そんな社会不安の中、人と人が助け合い、多くの人々の心の中に「人とのつながりを大事にしたい」という気持ちが生え、社会的協調性といったものが震災をきっかけにして日本中に醸成されていくのを当時は感じたものです。

ところが、人から人へと感染するウイルスが原因で、疫学的必要性から感染拡大を防ぐために、人と人との間隔を一定程度「社会的距離（Social Distancing）」とることが求められ、文字通り人と人との距離が遠くなってしまう。今、もはや電車で隣に座っている知らない誰かは、コロナウイルスに罹った恐ろしい敵のような存在に感じられ、他者に対する不信感が渦巻いているように感じます。

ドラッグストアの前でマスクの奪い

合いの喧嘩をしているお客、スーパーに行列をなしてトイレトパーパーやカップ麺を買い占めようとしている消費者、「自分には関係ないよ」とパーティーをしている若者、まるで世紀末救世主伝説^{北斗の拳}に出てくるモヒカン頭で略奪をしている悪党どもになつてしまったかのような人々の映像を見ていてみると、思わず「世も末ですね」とつぶやきたくなってしまうのは私だけではないはずです。

そもそも、人はその時々々の感情に流されがちなものです。それがプラスの感情であるならば、それに従うのも悪くないのですが、たとえば、怒りや悲しみ、嫉妬や憎悪のようなマイナスの感情に何も考えずに流されてしまったなら、物事の判断を誤り、独りよがりな迷惑行為に及んでしまうこともあるでしょう。そんな時には、冷静になつて、まずは自分の頭で考えてみるということが必要なのだと思います。

仮に都市封鎖が行なわれたとしても、震災の時とは違い物流が途絶えるわけではないので買いだめなどはする必要がないということは、先だって都市封鎖をしている諸外国の例を見てもわかるはずですし、医療従事者に回らなくなるほど市井の人たちがマスクを買い占めてしまったら、自分が罹患した時に行く病院がなくなつて、結局自分が困ることになるだろうってことは、少し考えればわかることだと思つています。

とはいえ今、自分の頭で考えてみても答えが出ていない問題があります。それは、都市封鎖が行なわれ外出禁止令が出た際の^{不要不急の外出}の範囲です。海外から発信されたSNSを見てみると、外出禁止令が出ている海岸でサーフィンをしていて逮捕されたサーファーの画像などが投稿されており、サーファーの間ではその行為の是非について論争が起こつています。

外出禁止令下においても、個人での

スポーツ・屋外の新鮮な空気を吸うための運動はOKとされているにもかかわらず、なぜあのペルーのサーファーは逮捕されなくてはならなかったのでしょうか？

いずれにしても、自分も「サーフィンをしたい」という感情に流されて、北斗の拳のモヒカン頭の悪党のような世間の厄介者になつてしまわないように、十分に注意をしないとイケません。



Akira Saito

神奈川県生まれ。40年生まれ。昭和40年出身。昭

【近況】事務所の周辺の銀座や東京駅が閑散としていて、まるでSFの世界のようです。早く平和な日常に戻れますように願っています。